

兵庫県立北条高等学校 令和6年度 学校評価

学校運営 中期目標	令和7年度の人間創造コース廃止に伴う新学科開設によって北条高校の発展を図る。		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	・新学科のカリキュラム案を完成させ、探究活動について職員のスキルアップを図る。 ・教職員の資質向上と勤務時間の適正化の両立を図る。	・新学科の内容を生徒・職員、中学校、地域等学校内外に広報し、北条高校の新しい動きに理解を求める。 ・新学科設置の動きを先行実施し、在籍生徒・教職員が負担感なく新学科を迎える体制を作る。	・新学科の取組を普通科に拡大し、中学校、地域等の関係者に周知広報する。

○各部署の単年度目標と学校評価 *A：十分達成した B：おおむね達成した C：不十分だった ※【参考】学校評価アンケート A：3.2以上 B：2.5～3.1 C：2.4以下、肯定意見(%)

部署	単年度目標等	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価(コメント)
管理職	新学科の内容を生徒・職員、中学校、地域等学校内外に広報し、北条高校の新しい動きに理解を求める。 【参考】 3.0 79.9% Q1 学校案内、ホームページ等の充実 3.0 79.9%	B	学校案内の等による中学校、地域等への広報、オープンハイスクール、生徒向け講演会の一般開放等を行い、周知を図った。県の9月進学希望者数調査ではSTEAM探究科32名、普通科68名、計100名、11月調査ではSTEAM探究科52名、普通科60名、計112名の希望者があり、中学校、地域等において、一定の理解を得られている。 学校案内、ホームページ等は刷新し充実させたが、アンケート調査では肯定意見が教員91.7%のところ、在校生、保護者は76.7%、65.0%とやや少ない。今後、在校生、保護者用の内容の工夫、発信等をさらに検討する。	・在校生の保護者の立場では、新学科の情報を得る機会は多くなかったかもしれない。 ・引き続き、情報発信に注力願う。特に、中学校・保護者への発信内容充実を望む。 ・Q1保護者の満足度が低い。その原因は何か。 ・HP作成には、教員が中心と思うが、生徒などの意見が反映されるような取組も必要ではと感じる。STEAM探究科への理解が進んでいると思うが、小中からの連続性も大切であることの発信もしてはどうか。 ・学校案内・ホームページについては、県立高校のものと思えないほど垢抜けしており、私立高校に匹敵するほど充実した内容となっている。
	新学科設置の動きを先行実施し、在籍生徒・教職員が負担感なく新学科を迎える体制を作る。 【参考】 3.3 85.3% Q2 教室や探究ルーム等、校内施設の整備 2.9 72.7% Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.3 88.7% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.5 93.9% Q5 本校の探究活動(総探等)の充実 3.2 83.9% Q17 先進校等への視察、校内研修等充実 3.4 87.5%	B	企業や大学等の外部講師の講演会や、名古屋外国語大学国内留学、ロサンゼルス研修等のほんもの体験の機会を用意した。アンケート調査では肯定意見がほとんどであった。(講演会：生徒90.7%、保護者79.5%、教員95.8%、ほんもの体験：生徒94.2%、87.6%、教員100%) 先進校等への県外視察を実施し、校内での情報共有を進めた。教員へのアンケート調査では肯定意見が95.8%であるが、探究活動等の充実にはさらなる実践が必要であり、情報共有を進め、授業改善等に活かしていく。 各委員会の統合整理、文書受付の電子化、学校行事の精選(体育大会入場行進等の廃止)等を進	・教員の超過勤務時間推移も引き続き、注視願う。 ・積極的に外部と連携し、探究活動、教科横断・文理融合・STEAM教育の充実を図っており、特色ある教育実践を行っている。取組に対する生徒、保護者、教員の満足度も学校評価アンケートから非常に高いことが分かる。一方、これらの取組が生徒たちの学びや成長にどのような効果をもたらしたのか。それらを検証する指標に何を設定しているのか。Q13に評価について尋ねているが、具体的にはどのような評価方法で、今後の活動につなげているのか。例えば、Q6、7の経年比較ができれば、取組前後の差などから、効果を検証できるかと思う。 ・探究ルームについて、そのものの稼働率の把握、

			めた。 昨年度と比較して定時退勤日等の実践率が向上し、月別の超過勤務時間数は減少した。今後、さらに業務改善等を進め、生徒と向き合う体制を充実させていく。	活用シーンの共有、地域への貸し出しなども考えられてはどうか。 ・校内施設の整備の具体的な内容を示して、要望等を行っていくことが必要。その他の評価はAと評価する。 ・新しいことを始めるには、相当に大きなエネルギーを要するが、ほんもの体験等でその下地は整った状態である。新学科へのスムーズな体制の移行が期待される。
--	--	--	--	---

中期目標 ①	コース改編（新学科設置）に向け、普通科も含めた全体の教育内容やカリキュラムを再編する。		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	・新学科イメージ図(ポンチ絵)の完成 ・新学科の教育課程の仮完成 ・教育内容の一部先行実施	・新学科イメージ図(ポンチ絵)の改善 ・新学科の教育課程の完成 ・教育内容のうち、大部分の先行実施	・新学科1期生の入学 ・新教育の本実施

○各部署の単年度目標と学校評価 *A:十分達成した B:おおむね達成した C:不十分だった ※【参考】学校評価アンケート A:3.2以上 B:2.5～3.1 C:2.4以下、肯定意見(%)

部署	単年度目標等	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価(コメント)
総務部	【新しい学びへの環境整備】 各部署と連携して、生徒の学習意欲につながるような環境を整備する。 【参考】 2.9 72.7% Q2 教室や探究ルーム等、校内施設の整備 2.9 72.7%	B	教室はICTや猛暑対策として遮光カーテンを導入した。探究ルームや図書室の整備は、新しい学びにつながる環境づくりをさらに継続していく。	・生徒のニーズをできるだけ反映願う。 ・校内施設の整備の具体的な内容を示して、要望等を行っていくことが必要。 ・学校評議員会の会場にも使用された探究ルームは、公立学校の教室といった概念を超越しその雰囲気も良く、生徒が新たなアイデアを生み出すツールとして有効と思われる。
教務部 (カリキュラム委員会)	【新学科イメージ図】新学科の学びについて、教務部とコース委員会を中心に多くの教員の意見を踏まえながらデザインし、イメージ図として落とし込み、公開する。 【参考】 3.0 79.9% Q1 学校案内、ホームページ等の充実 3.0 79.9%	A	昨年度完成したイメージ図を一部改善しながら、外部への説明等に活用した。アンケート調査では保護者の評価がやや低いが、中学校向けであることから本校保護者は触れる機会が少なかった可能性がある。	・毎年、イメージ図をリニューアルしながら、保護者への説明機会を設けるよう願う。 ・5角形のものと思われるが、どのような客体にも受け入れられるイメージ図であることが望まれる。
	【教育課程】普通科、新学科ともに令和7年度入学生教育課程を次の方針のもとで再編する。 ①原則7限を廃止して生徒に時間を返す。 ②単位制のもとで多様な選択を生徒自身ができるようにする。 ③STEAM教育や文理融合を見据えた教育課程を編成する。 【参考】 3.7 100% Q16 令和7年度入学生教育課程の検討 3.7 100%	A	カリキュラム委員会を中心に教育課程の検討を進め、細かいところを除いて左記方針に基づいた教育課程を完成させることができた。また、令和7年度開講の学校設定教科・科目の内容の検討をすすめることができた。 教員へのアンケートにおいても「そう思う」が圧倒的に多く、肯定が100%であり、順調に進捗したといえるだろう。	・令和8年度に向け、更なるブラッシュアップをお願いする。 ・この高評価は丁寧な議論を重ねてこられている結果だと思う。 ・「単位制」の導入に伴い、生徒の興味、関心等を充足するような「科目」の充実を期待する。

	【探究活動】昨年度１年生で導入した探究的内容を改善しながら今年度の１年生で実施する。さらに、令和７年度に普通科と STEAM 探究科の総探を統合することを踏まえ、１年生普通科探究とコース探究の連携をとる。 【参考】 3.2 83.9% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 3.2 83.9%	B	昨年度に引き続き名古屋外国語大学竹内慶至准教授の指導助言をいただきながら探究活動を推進し、昨年度の課題の改善も進んだ。コースにおいても探究的内容への改善が進んだように思う来年度の本実施に向けた準備はおおむねできたように思う。 アンケートにおいても生徒・保護者・教員ともにその充実に対して肯定意見がほとんどだった（生徒 81.6%、保護者 82.5%、教員 87.5%）が、今後は「そう思う」の割合が増えていくよう、カリキュラムを工夫していく必要がある。	・北条高校ならではのカリキュラムを期待している。 ・各方面からのニーズがあり多忙な講師の方に関わっていただいていると思う。今もされていると思うが、アピール（成果も含めて）方法や手段を再度検討されてはどうか。また、継続を前提としながら更なる開発も不可欠かと思う。 ・STEAM 探究科への移行を着実に進めていることを高く評価する。 ・名古屋外国語大学の外部講師の指導等により、更に充実した探究カリキュラムの構築を目指すよう願う。
進路指導部	【キャリア教育】進路ガイダンスやインターンシップ等の機会を充実させ、生徒が自身の将来について考え、個人の可能性を広げていくための支援を行う。 【参考】 3.1 77.5% Q6 進路や将来を考える機会の充実 3.1 77.5%	A	アンケート結果では、生徒の 9 割近くが肯定的な意見を示しており、講演や活動等が進路や将来を考える上で有意義な時間であったことが確認された。	・たくさんの大人の方と出会う機会を与えていただけることは、とても良いことだと思っている。子供たちの世界が広がるといいなと思う。 ・継続取組をお願いする。 ・Q6, Q7 で保護者の否定的回答がやや多いような気がする。情報共有、コミュニケーションの齟齬がないよう願う。 ・生徒の適性を的確に把握し、生徒に寄り添った進路支援をお願いする。
生徒支援部	【校則の見直し】本校の生徒会諸規定と生徒心得等の内容が適切で妥当性があるかを検証する。 【参考】 3.0 78.7% Q8 校則の見直し 3.0 78.7%	B	近年、大きな見直し・改善を行ったが、アンケートから「上手に周知ができていないのではないか」と考える点があった。 校則見直しに関する情報の公開・周知の機会をきちんと持って、より良い取組にしていく。	・PDCA を十分に回すようお願いする。 ・重要な項目だと思う。校則見直しに関する情報の公開・周知の機会をつくられると共に生徒の声が届く、その声について反映（今は難しいという回答も含めて）されているかの検証もあってもよいかと思う。 ・校則については、生徒会の意見を取り入れながら、適切なアップデートをお願いする。
	【生徒会行事の改廃】行事を実施する目的や内容を見直し、意味のある充実した行事運営を目指す。 【参考】 3.2 86.4% Q9 生徒会行事の内容の充実 3.2 86.4%	B	今年度はいくつかの生徒会行事を廃止してきた。まだ目的や内容を改善する余地はあると考えているので、次年度はより細かな点まで見直していく。	・生徒目線を尊重したスクラップアンドビルドを進めるようお願いする。 ・既成概念にとらわれず、生徒が自ら進んで参加したい行事を選別して開催するよう願う。

情報部	【ICT の効果的な活用】学習活動のなかで効果的に ICT を活用していく。また、研修等をとおして、教職員に効果的な活用法を広めるだけでなく、それを生徒に還元していく。 【参考】 3.2 85.7% Q11 学習活動で、必要に応じて ICT を活用 3.2 85.7%	B	アンケートによると、「学習活動のなかで、必要に応じて ICT を活用することができている」の回答は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答が多かった。(生徒 85%、保護者 81%、教員 92%) 探究活動では ICT の活用が定着したようだが、教科での活用に注目すると教科ごとにばらつきがあるのが現状である。ただ、今年度 Microsoft のライセンスが無償版から有償版に変わったことにより、今まで以上に ICT の活用の幅は広がると感じている。今後、職員研修等を重ね、それを生徒に還元させていくことにより ICT をもっと身近に感じられるようにするのが課題である。	・活用促進が、教員の超過勤務時間削減にもつながることをよく説明し、推進願う。 ・教科によって偏ることなく、積極的に ICT を有効活用し、ペーパーレス化を推進願う。
コース委員会	【北高 Learning Style】 本物に触れ、本物を経験し、自分で考えて、自分で決め、自分で責任を持つことを目指し、「ワクワク」を体験できる機会や活動を提案する。 コース 1 期生から行っているフィールドワークを中心とした活動を普通科に広げ、学校全体の活動となるよう準備を進める。 探究活動にアカデミックな要素を多く取り入れ、有識者等から指導助言を受ける。 自ら体験することを大切にし、「問いを立てる」方法を探り、自らが課題を見つけ、「探究」へと発展させる方法を身につけさせる。 【参考】 3.3 88.8% Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.3 88.7% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.5 93.9% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 3.2 83.9%	A	本物に触れ、本物を経験する機会として、ロサンゼルス研修や、名古屋外国語大学語学研修を実施し、新学科設置に向けて、コースの生徒が活動を牽引する役割を果たした。 次年度以降、普通科と一緒にボランティア活動等も含めたフィールドワークを行うために、授業時間内で帯活動ができることが望ましい。 有識者によるアカデミックな授業展開としては、竹内慶至准教授などから継続して指導を受け、問いを立て、探究活動のクオリティを高めるよう働きかけを続けていきたい。	・北条高校ならではの教育機会が、希望する生徒に与えられるように、資金面を含めハードルを下げる工夫をしていただければ、ありがたいと思う。 ・Q12 主体的取組を行うことができていると生徒たちは評価しており、先生たちの働きかけが押しつけになっていないことが分かる。 ・「問いを持つ」ことは、次世代を生き抜く生徒にとって重要視する資質能力だと考える。さらなる充実を図っていただきたいと思う。「問い」は追求すればするほど変化していく。その「問い」の変化に気づく場面や「問い」から次の「問い」へと深化する場面、卒業してからも「問い」を続けるカリキュラム設計なども検討されてはどうか。 ・探究活動のクオリティを更に高めることで、学力だけでなく主体性と協調性を備えた人材の育成を期待する。

中期目標②	カリキュラム・ポリシー（CP）に掲げた教育内容の実施と、コース改編を踏まえた見直しをおこなう。		
	令和５年度	令和６年度	令和７年度
	・できるところから実践する。 ・特に不足している内容について、取組内容を検討し、一部実施に移す。	・CPに掲げた項目について、ひとまずすべて実施できている状態とする。 ・CPそのものを評価し、コース改編に合わせた見直しを図る。	・コース改編に合わせて見直した CP に基づいて教育活動を実施する。 ・完全実施を実現するために実施内容を点検・評価する。

○各部署の単年度目標と学校評価 *A：十分達成した B：おおむね達成した C：不十分だった ※【参考】学校評価アンケート A：3.2以上 B：2.5～3.1 C：2.4以下、肯定意見(%)

部署	単年度目標	評価	総括(課題と改善策含む)	学校関係者評価(コメント)
総務部	【北高 Learning Style】 生徒の主体性を育てる特別活動の在り方を見直し、学校行事における生徒の主体的活動を推進する。 【参考】 3.2 88.4% Q12 授業や学校行事等での主体的活動の推進 3.2 88.4%	B	学校行事のあり方を見直し、生徒の主体的活動を増やしていく。まだ増やす余地があると考えてるのでさらに検討する。	・生徒の考えも取り入れるようお願いする。 ・主体的活動への生徒の評価は高いが、具体的にどこに改善点があると考えているのか。 ・既成概念にとらわれずに、新しい取組に見合った更なるスクラップの推進により、「職員の働きがい」が向上することを期待する。
教務部 (カリ委員会)	【北高 Learning Style】 「学びの PDCA サイクルの確立」「個別最適と協働的学び」の通常授業への導入を推進し、アンケートにおける「そう思う」(できている)の割合を、PDCAサイクル、個別最適、協働において5割程度にまで高める。 STEAM 探究科設置に向け、令和7年度からのスクール・ポリシーの改定を進める。 【参考】 3.1 88.4% Q13 「学びのPDCAサイクルの確立」の推進 3.0 80.4% Q14 「個別最適な学び」の推進 3.0 79.6% Q15 「協働的な学び」の推進 3.2 89.8%	B	・PDCA サイクル：生徒 30.1%、保護者 21.9%、教員 20.8% ・個別最適：生徒 25.0%、保護者 19.7%、教員 25.0% ・協働：生徒 37.0%、保護者 22.6%、教員 33.3% →目標とする5割には到達できなかった。なお、肯定評価は75～90%程度で、なかでも生徒の評価が高いので、それなりに「北高 Learning Style」が浸透しているのではないかと考える。一方で教員の評価がやや低いのはもっと工夫ができていると感じているのではないかと。教員個々の工夫に加え、必要に応じて研修や情報提供をしていく必要がある。STEAM 探究科設置に伴い、さらなる改善をすすめたい。 ・スクール・ポリシーの改定については、これまでの教育を土台に新しい要素を取り入れながら、よいスクール・ポリシーを作成することができた。	・低調な原因を特定し、更なる改善を進めるようお願いする。 ・STEAM 探究科に対応した新たなスクール・ポリシーの作成をお願いする。
	【探究活動】*中期目標①に同じ			

進路指導部	【キャリア教育】生徒が自らの意志と責任で進路実現するための支援を組織的・計画的及び継続的に行う。学年担当を超えて、職員全員で個々の進路実現をサポートする体制を整える。 【参考】 3.0 80.6% Q7 進路面談等の機会の充実 3.0 80.6%	B	アンケート結果では、各学年の約 80～90%の生徒が肯定的な意見を示していた。今後は、さらに多くの生徒が満足できる支援体制の強化を目指していきたい。	・継続取組をお願いする。 ・本物体験が、どのように進路に影響しているか、継続的な分析が必要である。 ・学年担当を超えて職員全員で個々の進路実現をサポートする体制づくりは理想的で効率的なものと思われる。
生徒支援部	【特色ある取組】地域ボランティアを通して、ふるさとに貢献しようとする生徒の育成は継続する。また、関係団体との連携強化を図り、より充実した活動ができるように活動を精査する。 【北高 Learning Style】 生徒の主体性を伸長できるよう意見のくみ取りや柔軟な対応を心がけ、各行事の企画・運営と校則を見直していく。 【参考】 3.3 88.9% Q10 ボランティア等の地域貢献活動の充実 3.3 88.9%	A	目的は概ね達成できたと考えられるが、持続的な取組であり続けるために、ボランティアの在り方を見直していく。	・地域の行事で北条高校生を見かける。どの場面でも、真剣に、でも楽しそうに取り組んでいる姿は、見ていてとても気持ちがいい。たくさんのボランティアに参加されているが、参加する生徒たちの目的はあるのか。参加したことで、どのような学びを得たのか。 ・地域のボランティアニーズを再度、調査の上、活動のフィールドを拡げることを期待している。 ・方々でボランティアの生徒を拝見し、頼もしく思っている。今後も、楽しく活動できる環境を維持してほしい。 ・地域貢献にかかるボランティア活動は、加西市も大変ご協力をいただき感謝している。活動量について問題がある場合は、学業に支障のない範囲に制限願う。
情報部	【北高 Learning Style】 ICT やクラウドサービスを活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を普段の学習活動のなかで推進していく。 【参考】 3.1 85.4% Q18 ICT を活用した「個別最適な学び」の推進 3.1 83.3% Q19 ICT を活用した「協働的な学び」の推進 3.1 87.5%	B	教員アンケートの結果では「ICT やクラウドサービスを活用しながら個別最適な学びと協働的な学びを推進している」の肯定的な回答は個別最適 83%、協働的な学び 87%と比較的高かったが、それぞれ不安に感じている教員がいることも分かった。次年度はともに 90%を超えることができるよう、職員研修等を重ねていきたい。	・継続取組をお願いする。 ・ICT の活用は教員によってスキルにバラツキがあると思われるので、職員研修やマニュアルの共有により、平準化に努められたい。
1 学年	【北高 Learning Style】 自分を律し仲間とともに高め合いながら、様々な体験活動を通じて視野を広げ、自己肯定感を高めていく。また、自分で考え、自分で判断し、自分で責任を持つよう、多くの場面で選択の機会を設ける。 【学年目標】 (1)挨拶、時間厳守、整理整頓・清掃の徹底。 (2)規範意識の向上、社会や学校のルール・マナー遵守。 (3)自ら考え、責任を持って判断・行動する力の育成。 (4)目標や夢を持ち、積極的な挑戦をする生徒の支援。	B	特別授業・講演会の多くの実施や総合的な探究の時間で生徒らは、自分のことや社会への関心を持ち、視野を広げられている生徒が多い。学校行事や校則の見直しにも関心をもっており、学校生活をよりよくしたいと考えている生徒が増えている。一方で、自己肯定感が低く、自ら主体的に行動する生徒は少ない。そのため、授業や行事などで協働し取り組む場面を増やすなどして、課題を達成させるなど、自己肯定感を伸ばせるような取り組みを考え取り組	・実現のハードルが高いテーマだと思うが、引き続き粘り強い取組をお願いする。 ・1～3 学年を通じて、学年ごとのアンケートを見ると、1 学年での希望（評価が高い）から 2 学年の評価が下がり、3 学年にはまた、上がる要因は何か。 ・自己肯定感は生徒が個人として成長していく上で、極めて重要な要素であるので、主体性を伸ばせるような支援をお願いする。

	【参考】 3.5 94.1% ※1年のデータ Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.6 92.3% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.8 97.4% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 3.3 89.0% Q12 授業や学校行事等での主体的活動の推進 3.4 97.6%		んでいきたい。面談の機会や取り組み方を改善し、目標や夢を語れる生徒の育成を目指したい。	
2 学年	【北高 Learning Style】 知的好奇心を高め、本物に触れ、本物を経験する機会を増やし、積極的にチャレンジさせる。 基本的学習習慣を身につけるために、意欲的に学ぶとする姿勢を育む。 「お願い」「相談」「感謝」をモットーに、他者と協働する精神を大切に、仲間と協力しながら色々なことに挑戦させる。 課題や問題を、自分事として捉え、主体的に解決に向けて行動できる人財となるよう、ボランティア活動やフィールドワークに参加させる。 【参考】 3.2 86.9% ※2年のデータ Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.2 88.4% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.4 92.9% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 2.9 76.6% Q10 ボランティア等の地域貢献活動の充実 3.4 87.5% Q12 授業や学校行事等での主体的活動の推進 3.2 89.2%	B	本物に触れる機会を多く与え、自らが選択し、実践していく機会を多く持つことができた。特に、初めての海外研修では、参加した生徒が大きく成長しただけでなく、その見聞を周りにも広げ伝え、大きく影響を及ぼした。活動を伴う学習は主体的、積極的に取り組めたが、座学では、まだ、基本的学習習慣の定着に向けて努力を必要とする生徒の割合が多いと感じる。仲間と協力しながら忍耐強く学習に取り組むことも必要だと感じる。 また、課題や問題を、自分事として捉えることを、さらに経験を通じて育んで行きたい。実際に経験することで立場を理解できるようになるので、今後も積極的にフィールドワークに参加させたい。	・自らボランティア活動に参加できる生徒もいると思うが、ボランティア活動に積極的に取り組めない生徒に何か対策はあるか。 ・生徒には気軽に取り組めるメニューから、チャレンジを続けてもらいたいと思う。 ・本物に触れ体験できる機会を生徒に等しく与えることで、その人間的な成長を期待する。
3 学年	【キャリア教育】 (1)自律と自立を基盤に自身の将来と向き合い、進路実現に向けて、自ら適切に意志決定と行動選択ができるようにする。 (2)進路実現に向けて、積極的な挑戦をする生徒を支援する。 【参考】 3.3 89.2% ※3年のデータ Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.4 92.1% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.4 93.3% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 3.1 80.8% Q6 進路や将来を考える機会の充実 3.2 89.9% Q7 進路面談等の機会の充実 3.2 85.3% Q12 授業や学校行事等での主体的活動の推進 3.4 94.0%	B	1 年次から校内・校外において、講演会や体験活動を通して、知見を広げ、社会への関心を持ち、生徒が将来への展望を持てる取り組みを積み重ねてきた。 3 年次はその総括として、①継続して自分の能力を高めること、②高めた能力を社会の一員としてどう活かすのか、③そのためにどのような進路を切り拓いていくのか、この①②③を柱に進路指導を実践してきた。 自身と向き合い、将来への展望を持つことはできたが、それを実現するための行動力・実行力に課題が残った。	・継続取組をお願いする。 ・人生の岐路を迎えたともいえる3年生に対し、進路実現に向けて適切な支援・アドバイスを与えてほしい。

コース委員会	【北高 Learning Style】 本物に触れ、本物を経験する機会を増やし、特別非常勤講師等を招聘し、アカデミックな内容の授業を計画する。 フィールドワークやボランティア活動に主体的に参加し、相手の立場に立つ経験を通して、物事を、自分事に捉え、解決に向けて思考錯誤する経験を持たせる。 「問いの立て方」を学び、課題解決にむけて、実践をする。 【参考】 3.3 88.9% Q3 企業や大学等の外部講師の講演会等充実 3.3 88.7% Q4 本物に触れ、体験する機会の充実 3.5 93.9% Q5 本校の探究活動（総探等）の充実 3.2 83.9% Q10 ボランティア等の地域貢献活動の充実 3.3 88.9%	B	特別非常勤講師の授業を充実させ、専門家から直に話を聞く機会が多く持てた。インターネットだけでは経験としての学びが不十分なので、対面で話が聞ける機会は貴重である。今後このような機会を増やしていきたい。 フィールドワークやボランティア活動には積極的に取り組み、地域の若い力として活躍している。今後も、この活動は学年縦割りで持続継続して行いたい。 探究活動において、問いを立てる取組を今後とも継続していきたい。	・できれば、特別非常勤講師は固定化しないよういろいろなチャンネルを使って多様性を持たせてほしいと思う。 ・継続を前提としながら更なる開発も不可欠かと思う。 ・今後とも、フィールドワークやボランティア活動には積極的に取り組み、学年縦割り活動を続けるようお願い。 ・探究活動において、問いを立てる取組は、生徒の今後の人生において有益であると思うので、持続継続して取り組むようお願いする。
---------------	--	----------	---	---